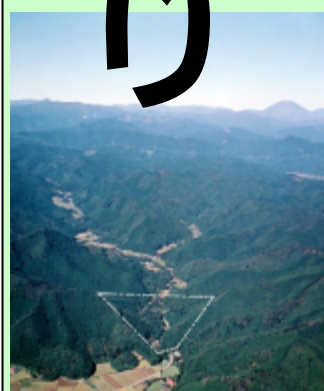


川の連携・明日への水

思川だより



南摩ダム予定地 (右後方は男体山)

発行所

水資源開発公団
思川開発建設所
☎028-622-8941

発行人兼編集人
柴田 安宏

平成十五年度思川開発事業概要について

今年度の思川開発事業は、南摩ダムの水没地権者の生活再建を着実に進めるとともに、栃木県や鹿沼市等の関係行政機関と十分に連携を図りながら、ダム直下の室瀨地区がある上南摩地区、黒川・大芦川・荒井川の取水・導水地区等の地域の皆様の理解と協力が得られるように努め、早期の用地取得に向けて、事業の進捗を

図ることを目標にしております。今年度の予算は27億円で、この他に民間資金を借り入れ、南摩ダムの水没地権者78世帯の生活再建を図ることとしております。6月末時点で、契約件数159件(66世帯)進捗率約15%(全体面積約375haのうち約56haを契約)

移転29世帯という状況ですが、年度内にできる限り生活再建を完了させるよう努めていきまします。合わせて、昨年度、移転対象者の用地調査を実施した室瀨地区についても、早期に生活再建が図れるよう取り組んでいく所存です。なお、利水者の皆様のご理解の下、今年度から円滑な生活再建を支援するため

特別寄稿

思川開発事業による 安定給水の確保を

北千葉広域水道企業団企業長

吉崎 満



当企業団の用水供給区域である千葉県北西部は、高度成長期における東京都からの流入人口により急激な都市化が進展し、水需要の急増をみたところす。

それまで水源のほとんどを地下水に依存していた市町にとっては、事業拡充に伴う地下水の水質悪化や特に地盤沈下進行の問題が生じたことから、従来の地下水依存型から表流水利用への転換が切実な問題となりました。

これにより各市町は、地下水の代替となる河川表流水の確保や水道施設の整備などを一元化した企業団方式による広域水道計画を策定し、昭和48年に北千葉広域水道企業団が設立されました。

企業団では、現在、構成団体において将来見込まれる水需要に必要な水源が未だ全量確保されていないこと、また、暫定水利権であるため渇水時における安定給水に苦慮している状況にあることから、安定した水源確保のため思川開発事業の一日も早い完成に期待を寄せるものであります。

水源開発は、地元地域の皆様のご協力と犠牲の上に成り立っていると申さざるを得ない水没地域の皆様の苦渋の決断、関係者の皆様の長年の御苦勞に対し心から感謝申し上げますとともに、開発事業によって生み出された水を大切に使う行かなくてはならないと感じております。

今後とも、事業費の縮減、自然環境に十分配慮した事業の一層の推進に期待するとともに、工事期間中における安全を心からご祈念申し上げます。

の生活環境整備対策事業が、水源地域対策基金により実施されることとなり、紙面を借りて、改めて御礼申し上げます。次に、測量や調査量観測などの定期調査に加え、導水路関係の測量や調査を実施していきたくと考えております。特に、荒井川については、導水路通過地点の測量と地質調査の実施を地元で申し入れたところで、水資源開発公団は、安全で良質な水を安定して安くお届けすることを目標に、この10月に、独立行政法人水資源機構へ変わりますが、当思川開発建設所も、利水者の皆様の声をより一層業務の反映すべく取り組んで参りますので、今後ともご支援よろしくお願いいたします。



事業の最新情報を皆様にお伝えします

おもいがわトピックス



加蘇地区事業説明会の開催状況

今回の説明会は、導水路が荒井川の下などを通過する加蘇地区の方々が不安を抱くことが無いよう、という趣旨で、地区全体の方々に対象として開催され、7自治会から44名の方々に参加していただき、地域の皆様方から様々な質問や貴重なご意見を戴くことが出来ました。今後引き続き事業説明会を開催するなどして、皆様のご理解・ご協力をお願いして参ります。



室瀨地区の皆様方と公団職員



【室瀨地区集会所完成】
ダム直下の室瀨地区の方々と協議をさせていただいたための集会所が3月末に完成し、5月11日に開所式を同地区の皆様方と執り行わせていただきました。開所式では、南摩ダム室瀨対策協議会から、開所式の前に行われた協議会総会において、これまで不在となっておりました会長(駒場勝氏)が選出され、協議会役員の方々の体制も相整ったことをご報告を頂きました。今後は、当集会所を使用して、室瀨協議会の皆様方と話し合いをさせていただくとともに、事業への理解がいただけない方に対して、引き続きご理解とご協力が得られるよう努めて参ります。

【加蘇地区事業説明会の開催】

7月17日、鹿沼市加蘇コミュニティーセンターにおいて、加蘇地区南摩ダム対策協議会主催の「思川開発事業(加蘇地区)全体説明会」が開催されました。その中で思川開発事業へのより一層のご理解とご協力を願うため、事業の目的や取水・導水の仕組みや今後同地区内で実施させて頂く測量・調査の内容等について、説明させて頂きました。

こんにちは！ 南摩の仲間たち



その
マメ科
ネムノキ (合歓木)
Albizia julibrissin

花期：6～7月
分布：本州四国九州
撮影：上南摩

ネムノキは本州から九州に生育する落葉の高木で、高さが10m程度になります。陽当たりが良い川沿いなどに多く、雑木林にも生育します。特に斜面下部の湿った土壌がある場所に多く生育しますが、乾燥する場所には生育しません。

花は梅雨の終わりから盛夏にかけて紅色から淡紅色の花を枝先につけます。淡紅色のボンボンのような形が印象的なかわいい花です。果実は長さ20cmほどで大きなサヤエンドウのような形をしています。

葉は多数の小葉が集まって偶数二回羽状複葉とよばれる形をしており、夜になると相対する小葉が合わさり、葉が閉じることから、そのような名前の由来となったと考えられています。

木材としては、材がねばり強く腐り難いことから下駄、斧や鎌の柄、家具、馬鞍、屋根板などに使われています。

漢字で「合歓木」。方言ではコウカ、コウカンボク、ネブタノキ、ネブリ、ネブリギ、ネブリノキ、ネムリノキなどがあります。

南摩では川沿いや斜面下部の林縁、落葉広葉樹林でピンク色の花をつけたネムノキを多く見つけることができます。

梶又小学校野外学習会

去る7月4日、鹿沼市立梶又小学校で同小学校児童7名、校長先生他教諭4名と公団職員及び指導員として財団法人昆虫保存協会の方々の協力を得て、野外学習会を開催しました。明け方まで降り、ちよど良い天候の中、梶又小学校からマイク口へ移動し、そこからは野鳥を観察しながら、昆虫採集をしました。約1kmの道のりを歩いて戻ってききました。



双眼鏡で野鳥を観察する児童たち

野鳥について、蝶やトンボ、バッタ、ハチなどの観察、採集を行うことができ、児童たちは、捕まえた昆虫を指導員の人に見せて、その昆虫の名前を聞いたり、話を聞いたりしていました。約1時間の間に、ヨドリ、セキレイ、カワラヒワ、セグロセキレイなど、多くの野鳥の姿を観察することができ、また、コゲラの鳴き声も聞くことができました。

虫かごには色々な種類の昆虫が入っていました。梶又小学校へ戻ったから、あらかじめ児童が作った鳥の巣箱を校庭の木に設置しました。安全帯を身につけ、ハシゴを上り、巣箱を紐で校庭の木に縛り付けるのですが、実際に行ったら2名の児童は、最初は恐る恐るハシゴを登り、巣箱を設置していましたが、他の児童の声援を受けて無事巣箱を取り付けることができました。

約2時間半の短い時間ではありましたが、自然の中で夢中になつて昆虫を追いかけ、また、野鳥を観察した事が、楽しい思い出として児童たちの心に残れば幸いです。



上手に巣箱を取り付けできたかな？



巣箱を設置する児童

6月12日、「劇団ふるさとミュージカル「リバーヘッド」上演」と水源地のものがたりが小山市立文化センターにおいて公演されました。このミュージカルは栃木県の鬼怒川上流にある栗山村を舞台として生まれ、水のありがたさ、大切さをメッセージに全国各地で公演されています。子供たちとその親で埋め尽くされた約二千二百席の会場は、ダイナミックな演技と歌声に大きな感動をうけていました。

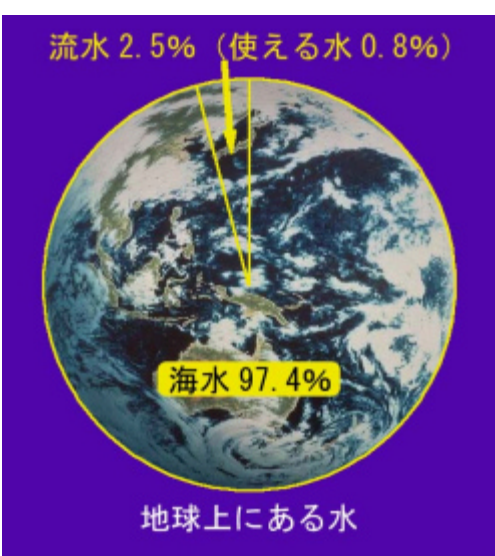
7月1日付で転入のありました職員を紹介いたします。
転入者 「よろしくお願ひします」(前任地) 第三用地課長 上野俊也 武蔵水路改築調査所

「独立行政法人水資源機構」に生まれ変わります。思川開発建設所もより一層、地域の皆様に信頼され、社会に貢献できる事業を目指してまいります。

「編集 水資源開発公団は、水資源の開発、水資源の活用、水資源の事業を推進することにより、国民生活の向上に寄与することを目的として、昭和37年に設立されました。以来40有余年、日本の水資源開発に貢献してきました。水資源の開発、水資源の活用、水資源の事業を推進することにより、国民生活の向上に寄与することを目的として、昭和37年に設立されました。以来40有余年、日本の水資源開発に貢献してきました。

びっくり！ 水の資源の まめ知識

その 「世界の水不足の話」
今、人口の急増や産業の著しい発展により、アジア・アフリカの31ヶ国が絶対的な水不足に悩んでいます。さらに、水不足から深刻な食料不足へと進行している地域が広がっています。現在、60億人を越えた世界人口は、2025年には80億人に達すると見込まれています。そのため、水需要は増え続け、2025年には48ヶ国で水が不足し、世界の40%の人々が、水不足に悩まされることになるかと推定されています。



参考文献 「第3回世界水フォーラム事務局資料」